



▲「簡単筋トレ教室」別府教室の様子。

■保健面では、「健康まぐらぎ21」に基づき、年齢層に応じた健康づくりを推進するため、健康管理に対する知識の普及や意識の高揚を図るとともに、複

健康で心がふれあう やさしいまちづくり

観光案内所を建設します。
■南薩地域振興局が県の観光PRの一環として、枕崎を起点とする南薩の観光ルート「坊野間風景街道」をホームページ上で紹介していることと連携して、枕崎の観光スポットの更なる発信に努めます。
■枕崎の秋の祭りとして、「新酒まつり」「農業祭」「ぶえん祭」がそれぞれの団体等の主催で開催

されておりましたが、今年から、市を含め、水産加工業協同組合や商工会議所のほか、地場産業振興センターなど市内の産業団体等を加えた「秋の産業まつり」として開催いたします。
■本市への交流人口や観光客の増加を図り、物流や交通機関の活性化のため、三島村営船「フエリー三島」の枕崎港就航実現に努めてまいります。

合健診や健康づくり体験教室等を実施し、疾病の早期発見、生活習慣病の予防・改善に努めます。
■高齢者については、地域包括支援センターと連携して、転倒予防教室や口腔機能向上事業、栄養改善事業及び簡単筋トレ運動体験事業を実施し、介護予防を推進するため地域支援事業を継続します。
■少子化対策の一環として、妊娠中の健康健診の負担軽減を図るため、「妊婦健診」の公費負担を5回から14回に拡充します。
■国民健康保険事業では、平成20年度から実施された特定健康診査・特定保健指導事業を推進

し、受診率の向上とともに、生活習慣病の予防・改善の向上を目指します。
さらに、平成20年度に創設された後期高齢者医療制度の円滑な運営を推進します。
■市立病院については、地方公営企業法の全部を適用し、事業管理者による経営の健全化及びより自律的な経営を図るとともに、老朽施設の改善等についても具体的な検討を行います。
■次世代育成支援対策については、次世代育成支援対策推進法に基づく本市の後期行動計画を策定します。策定に当たっては現在実施しているニーズ調査の意向を集計・分析し、計画に生かします。
■県の保育料等負担軽減制度を活用し、保育所や幼稚園に入学・通園する多子世帯の第三子以降の保育料等を助成し、子育てに係る経済的負担の軽減を図ります。
■高齢者対策については、保健や福祉、介護の状況を踏まえ策定した第四期老人保健福祉計画・介護保険事業計画に沿って事業を実施します。
■障害者自立支援法に基づく児童デイサービス事業について、保護者の経済的負担の軽減を図るため、無料化を実施します。

【次ページへ】

60周年記念イベント(抜粋)

■今年、昭和24年9月1日に枕崎市が誕生してから60年の区切りの年。そこで、市制施行60周年を記念して、平成21年度中に実施予定の主な関連イベントについてお知らせします。

なお、各事業の詳細につきましては、広報まぐらぎやお知らせ版等でその都度お知らせします。

実施時期	事業名	実施場所
5月16日(土)	枕崎ミュージックフェスティバル	市民会館
5月23日(土)・24日(日)	枕崎空港スカイフェスタ	枕崎空港(関連記事20頁)
8月22日(土)・23日(日)	宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」	総合運動公園周辺
8月26日(水)	巡回ラジオ体操	総合グラウンド
9月6日(日)	記念式典	市民会館
9月16日(水)	記念講演(京セラ稲盛名誉会長)	ホテル岩戸
9月17日(木)	NHK公開番組(テレビ)「BS 三枝一座がやってきた」	市民会館
1月22日(金)	三遊亭歌之介独演会	市民会館

■ほか、市制施行60周年記念事業

- ・市制60周年記念市勢要覧作成
- ・市制60周年記念枕崎市10年史資料収集事業
- ・枕崎写真集(CD版)作成

快適で便利な拠点性の高いまちづくり

「ふるさと交通安全フェアin枕崎」を関係団体と共同で開催します。複雑化・多様化する消費者トラ

ブルから市民を守るため、引き続き広報活動に努めるとともに消費生活出前講座を実施します。

■道路整備については、板敷大隣線及び茅野駒水線の改良工事を引き続き実施します。なお大堀通線については、新年度で完了する予定です。また、国道・県道については、事業の早期着工・完成に向け、関係者との調整に努めます。

■南薩縦貫道については、旧知覧町・枕崎間12キロメートルの「調査区間」への格上げと、全区間の早期完成に向け、近隣市と連携し、関係機関への要請を更に強化します。

■生活路線バスについては、利用状況等を勘案しながら、事業



▲「枕崎空港スカイフェスタ」ではグライダー体験搭乗もできます。(関連記事20頁)

者や県等と連携して市民の交通手段の確保と利便性の向上に取り組むます。
■JR指宿枕崎線については、本年4月から、鹿児島中央駅・枕崎駅間にラッピング列車「カトツオ号」を走らせるなど、沿線市等との連携を更に強めながら、利用喚起に努めるとともに、沿線の環境整備や利用しやすいダイヤ設定等の要請をしてまいります。

■枕崎空港の活性化については、今後とも産学官一体となった施設の有効活用を展開していくこととし、その一つとして、本年5月23・24日に枕崎空港スカイフェスタを開催します。

今後、県防災ヘリのドクターヘリ対応など県と協議し、空港の活性化を図ってまいります。
■情報化の推進については、既存の行政情報システムを再構築し、効率的でより充実した行政情報の提供に取り組むとともに、ネットワークの高速化により、ホームページや電子申請システ

ムの利用等における市民の利便性の向上に努めます。
また、平成23年の地上デジタル

人と物が交流し、活力みなぎるまちづくり

■昨年の枕崎港の市場取扱量は地元カツオ一本釣船をはじめ海外漁業とともに減少したものの、輸入カツオの増加により、13年連続で10万トンを超え、金額でも海外マーケットでのカツオ価格の高騰による影響を受け、漁協の事業年度で17億4千万円を記録しました。

■水産加工業については、世界的金融危機を背景とした我が国の経済活動の冷え込みや産地間競争などにより、厳しい経営状況が続いておりますが、今般、枕崎産物の本枯れ節が本場の本物として、食品産業センターから認定を受けたことは誠にうれしいことであり、更なる消費の

拡大について支援いたします。また、関係業界と連携して加工用原魚の安定確保のため、海外まき網船等の入港に当たっては、枕崎港への出港に感謝するとともに航海の安全と大漁を祈念して見送りなどにも引き続き努め、外来船等の誘致に取り組みます。



▲右:「本場の本物」に認定された本枯れ節
左:認定記念のオリジナルジャンパー

■農業については、安定的な農業経営の確立を図るため、担い手である認定農業者の育成に努めるとともに、花き施設の整備を実施します。
タンカンについては、「かご

ル放送全面移行への対応として、難視聴地区への受信対策に取り組みます。

しまの農林水産物認証制度」に基づく認証を受けたことから、更なる有利販売につながるよう「ブランド産地」の指定に向けて取り組めます。
また、安心・安全な農畜産物の生産に対する取組みとして、農業安全使用基準の遵守の徹底や、生産履歴の記載等の推進を図ります。

■本市の商業を取り巻く環境は、世界的景気後退の影響が波及してきており、売上げが減少するなど非常に厳しい状況にあります。このため、商工会議所等と連携し、枕崎ブランドの推進や空き店舗対策、プレミアム付き商品券の発行などによる商店街活性化策を推進するとともに、漁協等がすすめているスタンブラーを積極的に支援してまいります。

■観光客をはじめJRやバスを利用する方の利便性の向上を図るとともに、枕崎駅を基点とした薩摩半島西南部における新たな観光ルートの構築による交流人口の増大を図るため、枕崎駅周辺に休憩所とトイレを備えた